



「ワクワク・ドキドキ」から生まれる学び

子どもたちが保育園での生活の中で、「ワクワク・ドキドキ」を感じられるような保育（経験・体験）を考えています。

「今日は何をするのかな？」

「やってみたい！」

「どうなるんだろう？」

そんな気持ちが芽生えたとき、子どもたちは自然と夢中になり、自分から考えたり、試したり、友だちと一緒に楽しんだりします。

「教育」を意味する education（エデュケーション）の語源には、ラテン語の educere「内にあるものを外へ引き出す」という意味があると言われています。

私たちが考える教育も、子どもたちに知識や答えを一方的に「教える」ことだけではありません。

一人ひとりの子どもが持っている「やってみたい」「知りたい」「もっとやってみよう」という気持ちや力を引き出し、その育ちを支えていくこと。

そのためには、まず子どもたちの心が動くことが大切だと考えています。

「ワクワクする」
「ドキドキする」
「面白そう！」
「やってみたい！」



笑ったかす一番
遊んだかす一番

だっこされたかす一番
でかけたかす一番

やさしくされたかす一番
チャレンジしたかす一番



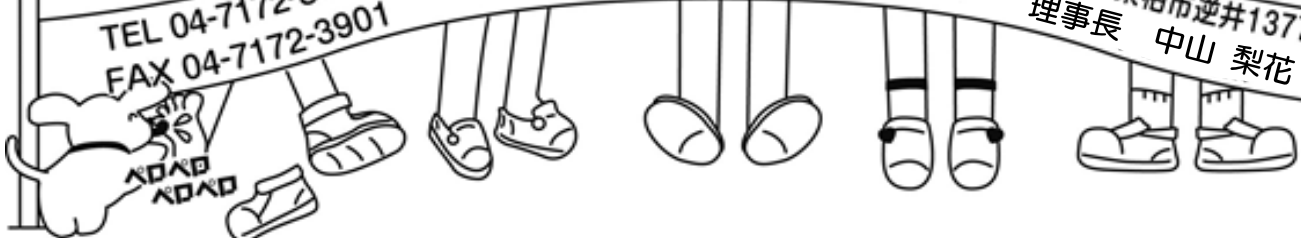
E-mail doushinkai@doushinkai.jp

URL <http://doushinkai.jp>

社会福祉法人 童心会

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 梨花



そんな心の動きが、夢中になることにつながり、夢中になることが学びにつながっていく。
遊びの中で思いきり楽しむこと、友だちと一緒に考えること、失敗してももう一度挑戦すること。
その一つひとつが、子どもたちの「生きる力」を育てています。
私たちはこれからも、子どもたちの中にある可能性を信じ、「ワクワク・ドキドキ」する環境をつくりながら、一人ひとりの育ちを引き出す保育を大切にしていきたいと思います。
「教える」だけではなく、「引き出す」「やらせる」ではなく、「やってみたい」を育てる。
そんな保育を、保護者の皆様と一緒に大切にしていけたらと思います。

日めくりカレンダーより

●11日

『子どもらの 宝物だよ

成功体験 失敗体験』

子どもたちの成功体験も失敗体験も、すべてが大切な宝物です。
挑戦する姿を五感で受け止め、「大丈夫！あなたならきっとできるよ」と応援しましょう。
成功した時には一緒に喜び、失敗した時にはいたわり、励まし、思いやりの言葉を届けましょう。
一つひとつの体験が、子どもたちの心に残り、未来へ歩み出す力になっていきます。

●12日

『自分でできた ひとりでできた

あきらめない生きる力』

「ひとりでできる、みんなとできる、人のためにできる、助けあってできる」経験を大切にします。
「自分でできた」という喜びは、子どもたちの自信となり、生きる力へとつながっていきます。
小さな挑戦をあきらめずに続けることで、経験は智慧となり、人生を歩む力へと成長していきます。
子どもたちの「あきらめない生きる力」が、これからの人生を支える道しるべとなることを願っています。

●14日

『手を出すな その失敗がヒト創る』

子どもたちが自分で考え、挑戦する中での失敗は、大切な学びとなります。
特に、「わくわくタイム」や園外保育など、自然の中で五感を使った体験を通して、子どもたちは多くのことを学んでいきます。

●20日

『ひとりでできる みんなとできる

人のためにできる 助けあってできる』

「ひとりでできる」ことから、「みんなとできる」「人のためにできる」「助けあってできる」へと成長していきます。人としてどう生きるべきかを問い続け、観る・聴く・触るという五感を通して、さまざまなことを学び、愛され、抱きしめられる経験の中で、人を思いやる心や、人として生きるための道理を身につけていきます。人のために、そして仲間と助けあって生きることに、人としての喜びがあるのです。

●22日

『ほめて はげまし 育ちあう』

子どもたちの育ちは、「観る・聴く・触る」ことから始まり、愛されることで心が育っていきます。
慈愛のあるまなざしや思いやりの言葉、ふれあいを大切にしながら、子どもたちを励ましていきましょう。
「だきしめ言葉」を届けることで、子どもたちは安心し、自分も人も大切にする心を育んでいきます。
ほめて、励まし、寄り添いながら、ともに育ちあう関係を大切にしていきたいものです。

令和8年10月吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 梨花